まちの話題

Machi no Wadai

市内で行われたイベントや行事、まちの話題を写真と一緒に紹介します。
また、みよし市ホームページでは「Topics（まちの話題）」と「市政番組『みよしTODAY』動画配信」でイベントや行事の様子を紹介しています。 URL http://www.city.aichi-miyoshi.lg.jp/

買ってみよう！ 売ってみよう！

お店屋さんごっこ（城山保育園）

売る人と買う人の役割を体験して、買い物の仕組みを学んでもらおうと1月19日、城山保育園でお店屋さんごっこが行われました。全園児32人と来年入園する予定の未就園児とその保護者10組が参加。初めに、年長園児たちが売り手になり、お店屋さんごっこがスタート。手作りのアクセサリーやおもちゃを売る雑貨屋さん、布で作ったお寿司の回転寿司など、個性豊かな商品を並べて「いらっしゃいませ」と元気な声でお客さんを呼び込んでいました。一方、買い手役の年少園児たちはお気に入りの商品を見つけると、財布から手作りのお金を取り出して購入していました。他にも先生たちが運営するレストランもあり、園児たちはチケットと引き換えに配られたプリンを見てにっこり。楽しみながら、買い物の仕組みについて勉強していました。

地域と行政が一体となって連携

徘徊（はいかい）捜索模擬訓練

高齢者が認知症などの原因で徘徊し、行方不明となった場合を想定して1月20日、西一色町地区で行政と地域で連携した徘徊捜索模擬訓練が行われました。また当日、同様の訓練が日進市および東郷町でも行われ、行政間の連携体制を確認。このような大規模な合同訓練は県内初の試みで、防犯パトロール隊や市の職員などおよそ50人が参加。初めに、みよし安心ネットのメール配信を受けた西一色区長の鰐部兼道（わにべかねみち）さんが行政区の放送を使って、地区の住民に捜索への協力を呼び掛けました。放送を聞いた住民は捜索を始め、発見した人は徘徊者に名前や行き先を確認。また、徘徊者を目撃した人はその情報を通報するなどして、地域全体で訓練に取り組みました。

音訳の大切さと基礎知識を学ぼう

音訳ボランティア講座

目の不自由な人が情報を入手するために必要な、音訳の技術を習得してもらうことで、視覚障がい者への理解を深めてもらおうと1月17日、福祉センターで音訳ボランティア講座が開催されました。これはみよし市ボランティアセンターが主催して、全5回で行われる講座。第1回目となる今回は、ボランティアセンター登録団体「やまびこの会」の三宅敬子（みやけけいこ）さんを迎えて、音訳ボランティアに関心のある12人が講座に参加しました。講座では、初めに音訳についての基礎知識を説明。音訳する上での発音の聞き取りやすさや正確さ、分かりやすさなどのポイントを解説すると、参加者はメモを取りながら興味深く聞いていました。

待ちに待った信号機が点灯

打越町後田信号機点灯式

打越行政区で長年、望まれてきた県道春木豊田線後田地内の押しボタン式信号機。その利用開始を記念して1月19日、信号機点灯式が行われました。式典には関係者や地元住民などおよそ30人が出席し、信号機の設置をお祝いしました。また式典の終わりには渡り初めが行われ、この信号機を利用する南部小学校の児童を先頭に、式典参加者が横断歩道を渡りました。打越行政区の加藤紀夫（かとうとしお）区長は「歴代の区長が長年お願いをしてきた信号機が設置され、本当に良かったです。これで子どもたちに限らず、多くの区民の皆さんが安全に県道を渡ることができるようになります」とうれしそうに話していました。

緑豊かなみよしを守ろう

環境保全講演会

環境について学ぶ機会を設けることで、地域の環境保全や公害防止、環境への負荷の軽減に取り組んでもらおうと1月17日、サンアートで環境保全講演会が行われました。「環境保全対策の原則」と題して行われた講演会には、市内の企業や近隣市町の環境担当者など合わせて90人が参加。講師の坂部環境技術研究所代表の坂部孝夫（さかべたかお）さんは「何が起きても想定外とは言えない今の世の中では、予測と予防がとても重要になってきます」と参加者に訴えました。また写真や新聞記事などで、これまでに起きた公害問題を取り上げて予測や予防の方法を紹介。参加者は、真剣な表情で自分や企業にできる環境保全への取り組みについて考えている様子でした。